

<b>Title</b>	聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告書（2010年度）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.2 : 20-29
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3141">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3141</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 聖学院大学大学院・総合研究所 教員活動報告書（2010年度）

もり た み ち よ  
森田美千代

**現職位：**教授

**本学への就任：**2000年4月1日

**最終学歴：**

1999年10月 ドルー大学大学院博士課程アメリカの宗教と文化専攻修了

**取得学位：**

1972年3月 教育学修士（国際基督教大学）

1990年5月 神学修士Master of Theological Studies（ドルー大学）

1998年5月 哲学修士Master of Philosophy（ドルー大学）

1999年10月 Ph.D.（ドルー大学）

**所属学会：**American Academy of Religion（1997年～）、アメリカ学会（2000年～）、日本キリスト教教育学会（2000年～）、初期アメリカ学会（2001年～）

**担当科目：**アメリカ文化学研究A（大学院、古屋教授との共同担当、アメリカ文化と宗教）、アメリカ文化学研究F（大学院、マーティン・ルーサー・キング研究）、アメリカ文化学A演習I／特殊演習（大学院、古屋教授との共同

担当）、アメリカ文化学特殊研究（大学院、博士論文指導）、研究方法特論I・II（大学院、研究の基本である「書く力」の指導）、キリスト教とアメリカ文化A・B（学部、ハリエット・ピーチャー・ストウ研究）、キリスト教教育論A（主としてホーレス・ブッシュネルのキリスト教教育論）

**学生指導：**大学院生の研究上の問題を、時間をかけて個人指導した。

**専門分野：**アメリカのキリスト教と文化

**研究テーマ：**マーティン・ルーサー・キング研究、ハリエット・ピーチャー・ストウ研究、ホーレス・ブッシュネル研究

**研究内容：**キングに関しては、彼のリーダーシップの源泉について研究を進めている。ストウに関しては、『アンクル・トムの小屋』に焦点を当てて研究を進めている。ブッシュネルに関しては、主として女性論と教育論の研究を進めている。

**研究業績（2010年度〈2010/4～2011/3〉）**

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Bb 学術論文	ローザ・パークスの生涯—マーティン・ルーサー・キング・ジュニアとの出会いまで—(単)	『キリスト教と諸学』26号、171-187頁。	キングに出会うまでのパークスの人生をたどることによってわかることは、育った家庭環境にしても、信仰と教会生活にしても、受けた学校教育にしても、公民権運動への参加のしかたにおいても、両者は意外と異なっていた。	2011.3

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Bb 学術論文	ローザ・パークスとマーティン・ルーサー・キング・ジュニア・モンゴメリー・バス・ボイコット運動以後—(単)	『聖学院大学総合研究所紀要』No.50、209-230頁。	本論文は、まず、キングは、モンゴメリー・バス・ボイコット運動を最初から組織し指導したのではなくて、パークスその他が準備した土壌に、後から登場してきたこと、次に、パークスは、キングの非暴力抵抗思想に関して一定の理解を示しながらも、それには完全には従えないと思いつけていたこと、さらに、キング個人ということではないが、MIAやSCLCなどの組織が性差別をもっていたことなどを、明らかにしている。	2011.3
G 書評	『神のみくらに玉と輝け—愛と祈りの教育者 中川咲子の物語』(単)	『聖学院大学総合研究所 Newsletter』vol.20, No. 5、4-5頁。		2011.3

ふじ わら あつ よし  
藤原 淳 賀

**現職位：**教授

**本学への就任：**2004年4月1日

**最終学歴：**

1989年3月 慶應義塾大学大学院

1994年5月 Golden Gate Baptist Theological Seminary

1999年7月 University of Durham

**取得学位：**

1989年3月 教育学修士（慶應義塾大学）

1994年5月 Master of Divinity (Golden Gate Baptist Theological Seminary)

1999年7月 Doctor of Philosophy (University of Durham)

**所属学会：**American Academy of Religion, 1996-, 日本基督教学会2001-, 日本福音主義神学会, 2004-, 日本宗教学会, 2005-, 日本宣教会, 2005-, Society of Christian Ethics, 2006-, Society

for Study of Christian Ethics, 2008-

**担当科目：**キリスト教概論A、キリスト教概論B、キリスト教信仰と文化、キリスト教と物語、キリスト教文化学研究A（大学院）

**学生指導：**指導を求めて来た学部生、大学院生には個人的にアドバイスをしている。

**専門分野：**キリスト教組織神学、キリスト教社会倫理学

**研究テーマ：**文化の神学、教会論

**研究内容：**キリスト教信仰の社会的関わりを大きな意味での研究課題としている。現在は、キリスト教の独自性と、広く非キリスト教世界にも適用可能なキリスト教倫理（人権、民主主義、平和の維持）とを結ぶ理論的土台をキリスト論のうちに見出すことを課題としている。

**研究業績**（2010年度〈2010/4～2011/3〉）

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
G 座談	「危機の時代を超えて」座談会	『札幌宣言:21世紀における教会のチャレンジ』pp. 110-162.		2010.7

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Bb 学術論文	「宣教の基礎理論としての神の自由と限界状況:カール・バルトとジョン・ヨーダーによる戦争理解」	『宣教学ジャーナル』vol. 4, 107-124.		2010.7
F 講演	「日本宣教概観とその課題」	日本同盟基督教団・西大寺キリスト教会80周年記念第31回西大寺コンベンション講演1		2010.7.3
F 講演	「神の物語と西大寺教会の物語」	同講演2		2010.7.4
F 講演	「なぜ日本に教会が必要なのか?:世を改革する教会」	同講演3		2010.7.4
F 講演	「責任ある教会として、軍備の問題に関わって行くか:沖縄基地問題を念頭において」	カンバーランド長老神学社会委員会「平和講演会」2010カンバーランド長老キリスト教会高座教会		2010.10.9
G 評論	「人的(personal)な信仰と個人主義的(individualistic)な信仰」	「21世紀の教会のために」『いのちのことば』2010年11号		2010.11
G 評論	「2つの誤り:変えなないことと、変えすぎること」	「21世紀の教会のために」『いのちのことば』2010年12号		2010.12
G 評論	「ケープタウン2010を通して考えたこと(1)」	「21世紀の教会のために」『いのちのことば』2011年1号		2011.1
G 評論	「文化の神学:教会がいかに関わっていくか」	町田クリスチャンセンター 冬季聖書学校		2011.1.10
G 評論	「ケープタウン2010を通して考えたこと(2)」	「21世紀の教会のために」『いのちのことば』2011年2号		2011.2
G 評論	「300年先を考えた教会形成を」	「21世紀の教会のために」『いのちのことば』2011年3号		2011.3

ふじ かけ あきら  
藤 掛 明

現職位：准教授

本学への就任：2003年4月1日

最終学歴：

1982年3月 大東文化大学文学部

2011年3月 聖学院大学大学院

取得学位：

2011年3月 学術博士 聖学院大学大学院

所属学会：日本犯罪心理学会（1982年～、2003年  
理事～）、日本矯正医学会（1982年～）、日本  
心理臨床学会（1986年～）、日本描画テスト  
描画療法学会（1990年～、1990年～評議員（理  
事）、2004年～常任理事、2009～副編集委員  
長）、東京臨床心理士会（2003年～）、日本臨  
床死生学会（2005年～）、日本福音主義神学  
会（2006年～）

担当科目：キリスト教とカウンセリング1、キリ

スト教カウンセリング事例研究（福祉学研究  
科）、アートセラピー入門（聖学院大学けん  
かつオープンカレッジ）、キリスト教カウ  
ンセリング概論（キリスト教関連科目）、スピ  
リチュアルケア論（学部）

学生指導：修士課程学生への研究指導

専門分野：臨床心理学

研究テーマ：心理テスト、心理療法、キリスト教  
カウンセリング

研究内容：雨の中の私画テストの検証、適用に関  
する研究。非行をはじめ、依存やハラスメン  
ト等行動化型のクライアントに対するカウ  
ンセリングの実践と研究。キリスト教牧師のメ  
ンタルヘルスや牧会カウンセリング活動の調  
査、分析に関わる研究。

研究業績（2010年度〈2010/4～2011/3〉）  
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
Ba 論文	非行少年の家族画の 研究-相互作用性に着 目した技法の理解と その活用	聖学院大学大学院 博士(学術)乙4号	非行少年の家族画について、その診 断・治療技法について、相互作用性の 観点から見直し、再考察を行った。	2011,03
Bb 論文	グリーンカウンセリ ングとアート	「臨床描画研究」第 25巻、日本描画テ スト描画療法学会、 北大路書房	グリーンカウンセリングにおける アートセラピーや日常生活のアート 体験の意味について、事例を通して 考察した。	2010,08
Aa 書籍	雨降りの心理学 雨 が心を動かすとき	燃焼社	雨の持つ心理的象徴性に注目し、日 本文学をテキストに読み解くことを 試みた。単著。	2010,08
G 評論	健康を失ったとき考 えること	「牧会ジャーナル」 第47号、いのちの ことば社	信仰者のターミナルの心理的トピッ クスを経験則的に指摘した。	2010,06
G 評論	「自分の弱さと限界 を認めること」を考 える(8)	「牧会ジャーナル」 第48号、いのちの ことば社	中年期の宗教者の性的逸脱行動の深 層を考察した。	2010,09
G 評論	牧師の心理的ダメー ジとしての「別れの 悲しみ」	「牧会ジャーナル」 第47号、いのちの ことば社	牧師の直面するグリーンについて考 察した。	2010,06
G 評論	「教会生活の寿命」論 を考える	「牧会ジャーナル」 第49号、いのちの ことば社	キリスト教信仰者が教会から離れる 際の心理学的意味を考察した。	2010,12
G 評論	現代人の生活とスト レス	「みずさき」第65号、 青山学院女子短期 大学	学生の抱えやすいストレスとその対 処の考え方について論じた。	2011,03

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Ab 書籍	カウンセリング実践 ハンドブック	丸善出版	項目分担執筆、「非行・犯罪臨床における コラージュ療法」	2011,01
G 評論	信徒がかかわる「牧師のメンタルヘルス」	「いのちのことば」7月号、いのちのことば社	信徒の視点から、牧師のメンタルヘルスの実態と支援の実際について考察した。	2010,07
G 評論	映画にカウンセリングを学ぶ	「出版ニュース」11月上旬号、出版ニュース社	映画をテキストに、カウンセリングの臨床知を学ぶことを提言した。	2010,11
座談	曖昧さに耐える雑誌	「本のひろば」7月号、キリスト教文書センター	雑誌Ministryを巡って、キリスト教界のさまざまな問題について対談した。(八木谷涼子、平野克己)	2010,07
座談	ウエ、シタ、ウチ、ソトから見たキリスト教	「Ministry」第6号、キリスト新聞社	雑誌Ministryを巡って、キリスト教界と社会との関わりなどについて対談した。(八木谷涼子、平野克己)	2010,07

ディーン ウォレン サザデン

## Dean Warren Sotherden

**現職位** : Seigakuin Junior and Senior High School

**本大学への就任** : 1997年4月1日

**学歴** :

1982年7月 Ohio University

1983年7月 U.S. Defense Language Institute

1983年12月 U.S. Military Intelligence School

1997年5月 Temple University

**取得学位** :

1982年6月 B.A. (Cum Laude) Anthropology  
(Ohio University)

1997年5月 M.Ed. TESOL (Temple University)

**担当科目** : I taught two Special English Classes in addition to other English classes. One Special English Class consisted of 7<sup>th</sup>, 8<sup>th</sup> and 9<sup>th</sup> graders who have displayed a special ability in English. The Special English Class was held five times per week during the academic year.

Another Special English Class consisted of 10<sup>th</sup> graders who have displayed a special ability in English. The Special English Class was held five times per week during the academic year. I conducted TOEIC training for junior high and high school students in seminars and in the Special English Classes. I conducted TOEIC training for 7<sup>th</sup>, 8<sup>th</sup>, 9<sup>th</sup> and 10<sup>th</sup> graders. Seminars were held once per week after school and during the Summer Seminar Period.

**学生指導** : I led a weekly English Bible Study for junior high and high school students.

**専門分野** : EFL Education and the TOEIC

**研究テーマ** : TOEIC preparation and Second Language Acquisition

**研究内容** : I am researching the ways that students can raise their TOEIC scores and communicate fluently in English.

たけ ぶち か おり  
竹 渕 香 織

**現職位：**助教

**本学への就任：**2005年4月1日

**最終学歴：**

1995年3月 聖学院大学人文学部児童学科 卒業

1999年3月 聖学院大学大学院政治政策研究科  
修了

**取得学位：**

1995年3月 人文学学士（聖学院大学）

1999年3月 政治政策学修士（聖学院大学大学院）

**所属学会：**日本発達心理学会（1998年～）、日本心  
理臨床学会（2004年～）、日本描画テスト・描  
画療法学会（2005年～）、日本発達障害学会  
（2006年～）、日本臨床死生学会（2010年～）

**担当科目：**自由学園非常勤講師 「心理学」担当

人間の健康な発達と疾患や障害、不適応など  
について概観。

**学生指導：**学生相談室にてカウンセリング業務（週  
2日）、フレッシュマンオリエンテーション、  
学生部オリエンテーション等で心理教育担当

**専門分野：**臨床心理学

**研究テーマ：**学生相談、青年期

**研究内容：**・青年期の発達障害について、特に支  
援体制の構築について  
・青年期の死生観  
・学生相談での面談、アセスメント方  
法について

**研究業績**（2010年度〈2010/4～2011/3〉）  
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
Aa 著書	死生学叢書3	聖学院大学出版会	学生相談という臨床の場では「死」と、喪失体験に対する青年期特有の捉え方、それに対するグリーフケアについて述べた。(生と死の教育の青年期を担当)(共)	2011.3
C 学術論文	「……私たちが長い間会えないでいることを大変寂しく思っています」 —エーリヒ・フロム＝パウル・ティリッヒ往復書簡及び関連書簡の解説と翻訳	聖学院大学総合研究所紀要 No.49	E・フロムとP・ティリッヒの公私にわたる交流を整理し、さらに両者の往復書簡と関係書簡から互いへの影響を探究。 〔「フロムにおけるティリッヒ」の章と書簡の翻訳を担当〕 マック・ゲーテマン財団の2009年度・2010年度のドイツ＝日本文化交流基金の助成に基づく研究の一部。(共)	2011.3
F 学会発表	大学生の死生観に関する意識調査 —死生観形成の要因を探る—	臨床死生学会大会	首都圏の大学生に行ったアンケート調査から、死のとらえ方と生のとらえ方の関連性と傾向を探った。またそこから死生学教育につながるポイントを指摘した。	2010.12
J その他	学生サポートのために(パンフレット)		配慮が必要な学生(特に発達障害)の特徴と支援のポイントをまとめ、全教職員に配布。	2010.5



こう まん せん  
高 萬 松

現職位：助教

本学への就任：2005年4月1日

最終学歴：

1981年2月 韓国、慶北大学校工科大学卒業

1999年2月 東京神学大学大学院修士課程修了

2005年3月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了

取得学位：

1999年2月 神学修士（東京神学大学）

2005年3月 学術博士（聖学院大学）

所属学会：日本基督教学会(2001年～)、日本ピューリタニズム学会(2005年～)、学校伝道研究会(2005年～)

担当科目：(大学)キリスト教とアジア文化A、キリスト教とアジア文化B

専門分野：組織神学

研究テーマ：日韓教会交流史

研究内容：戦後の日韓教会交流史を以下の項目に分けて研究を進めている。1) 日本基督教団と韓国三教団との「宣教協約」を結ぶまで。2) 民主化闘争の時代、両国の教会の「連帯」について。3) 両国教会の宣教課題の共有について。4) 日本聖公会と韓国聖公会との交流について。5) 日韓教会交流に関する資料のデジタル化など。

研究業績(2010年度(2010/4～2011/3))  
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
E 翻訳	청교도(清教徒)	基督教連合新聞社(ソウル)	大木英夫『ピューリタン』聖学院大学出版会、2006年の韓国語翻訳。	2010.6.21
E 翻訳	殉教を免れた李源永牧師の歩み	『聖学院大学総合研究所紀要』No.50	長老会神学大学校林熙國教授の著書『学者・牧会者、李源永研究』の解説及び第5章の日本語翻訳。	2011.3.31
Bb 学術論文	韓国教会の成長と危機	『聖学院大学総合研究所紀要』No.48	韓国のキリスト者の割合は、今まで漠然と用いられている全人口の25%の1200万ではなく、18.3%の862万人である。	2010.9.30
D 研究ノート	韓国におけるメソジスト教会の受容と成長(1)	『聖学院大学総合研究所News Letter』Vol. 20, No.2, 2010	1883年に11人の使節団がアメリカでGoucherに遭った。その繋がり、日本滞在中のMaclayの手伝いによって韓国宣教が可能となった。キリスト教に排他的であった当時の状況乗り越え、教会が発展できたのは、医療と教育を宣教の前面に出したからである。	2010.9.30
D 研究ノート	韓国におけるメソジスト教会の受容と成長(2)	『聖学院大学総合研究所News Letter』Vol.20, No.3, 2010	1919年の「三・一独立運動」以降、急速に変化する社会に対処するために、教会は組織や伝導方法を改善するよう要請された。1930年12月に「キリスト教朝鮮監理会」が形成され、独自の信仰告白を宣言し、韓国のメソジスト教会のアイデンティティを明確にした。	2010.12.31
D 研究ノート	韓国教会における平和統一路線	『聖学院大学総合研究所News Letter』Vol.20, No.3, 2010	韓国教会における平和統一路線は大きく二つある。大韓イエス教長老会と韓国基督教長老会の路線である。日本の教会は、韓国の方の教団に偏るのではなく、「南北平和統一問題」については、両教団とバランスよく交流する必要があると考えられる。	2010.12.31



区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
F 発題 コメント	「1910年から1945年までの日本側から見た日韓キリスト教会交流」をめぐって	聖学院大学総合研究所「日韓教会交流史」第1回研究会	「1910年から1945年までの日本側から見た日韓キリスト教会交流」(松谷氏)への応答	2011.2

まつもと しゅう  
松本 周

**現職位：**助教

**本学への就任：**2009年4月1日

**最終学歴：**

1996年3月 聖学院大学人文学部欧米文化学科卒業

2002年3月 東京神学大学神学部神学科卒業

2004年3月 東京神学大学院神学研究科博士前期課程修了

2009年3月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士後期課程修了

**取得学位：**

2004年3月 神学修士(東京神学大学)

2009年3月 博士(学術)(聖学院大学)

**所属学会：**日本キリスト教社会福祉学会(2002年～)、日本基督教学会(2002年～)、学校伝道研究会(2005年～)、日本ピューリタニズム学会(2005年～)、日本臨床死生学会(2010年～)

**学生指導：**大学院生のチューター

**専門分野：**組織神学

**研究テーマ：**キリスト教社会倫理、近現代キリスト教史(特に日本)

**研究内容：**日本プロテスタント史における〈祈り〉の受容と変容の問題、被爆思想の宗教学的的研究

**研究業績**(2010年度(2010/4～2011/3))

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Bb 学術論文	戦後日本とキリスト教—ピューリタニズム社会倫理の視点から	『キリスト教と諸学』vol.25(聖学院キリスト教センター発行)	日本国憲法による社会構造とキリスト教社会倫理の関係について論じた。	2010.3
Bb 学術論文	祈り・志・霊性—植村正久の理解をめぐって	『聖学院大学総合研究所紀要』No.49	植村正久の「志」理解について、彼のキリスト教人間観との関わりから論じた。	2011.1
D 報告	友情のくさを繋ぐ	「教団新報」4710・11合併号(日本基督教団)	アジアキリスト教教育基金(ACEF)20周年記念講演会の報告	2010.12
D 報告	懸案の救援対策基金設置を議決	「教団新報」4715号(日本基督教団)	基金設置の経緯と意義、課題について報告	2011.1
D 報告	日韓教会交流史研究会	『聖学院大学総合研究所Newsletter』vol.20-5	韓国・長老会神学大学と聖学院大学との共同研究の第一回研究会について報告	2011.3
F 学会発表	癒しの現代—〈ニーバーの祈り〉をめぐって	日本キリスト教社会福祉学会	〈ニーバーの祈り〉の有するスピリチュアリティの諸相を分析した。	2010.6
F 学会発表	人格の根源にある祈り—植村正久の理解をめぐって	日本基督教学会	植村正久の祈り理解を〈人格性〉の特徴から述べた。	2010.9
F 学会発表	永井隆の被爆思想と死生学—『犠牲』観念をめぐって	日本臨床死生学会	永井隆の思想と死生学との架橋可能性について発表した。	2010.12

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
F 発題 コメント	「1910年までの日本側から見た日韓キリスト教交流」をめぐって	韓国・長老会神学大学、聖学院大学総合研究所「日韓教会交流史」第1回研究会	「1910年までの日本側から見た日韓キリスト教交流」(原誠氏)への応答	2011.2

ジャスティン ナイティンゲール

## Justin Nightingale

**現職位：**特任講師

**本学への就任：**2007年4月1日

**最終学歴：**

1999年5月 University of North London

**取得学位：**

1999年5月 Computer Science (University of North London)

2001年4月 RSA CELTA Cambridge Certificate for Teaching ESL

**担当科目：**Seigakuin Primary School English Education

**専門分野：**English Education and Computer Science

**研究テーマ：**Early English Education

**研究内容：**Early English education, especially improving reading ability.

**研究業績** (2010年度〈2010/4～2011/3〉)

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
	iPad vs Paper	授業での実践	Using an iPad in the classroom for teaching and recording information instead of pen and paper.	2010/4
	Student Information Database	授業での実践	Experimenting with putting students' details on a computer database.	2011/3

きむらみさと  
木村美里

**現職位：**特任研究員

**本学への就任：**2009年4月1日

**最終学歴：**

2001年3月 聖学院大学人文学部欧米文化学科 卒業

2005年4月 Anglia Ruskin University MA in European Language and Intercultural Studies修了

2008年3月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科 修了

**取得学位：**

2001年3月 人文学学士 (聖学院大学)

2005年4月 Master of Arts (Anglia Ruskin University)

2008年3月 博士(学術)(聖学院大学大学院)

**所属学会：**日本比較文化学会(2009年～)、日本ピューリタニズム学会(2009年～、事務局幹事(2009年6月～))、比較思想学会(2010年5月～)、財団法人 緑の地球防衛基金 評議員(2010年11月～)

**担当科目：**大学院コロキウム (進行補助)

**学生指導：**大学院生のチューター

**専門分野：**思想史、比較文化研究

**研究テーマ：**環境保護における思想と実践、日英比較文化

**研究内容：**オクタヴィア・ヒルおよびナショナル・トラスト研究、理想実現における日英の比較

**研究業績**(2010年度〈2010/4～2011/3〉)

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
Ba 学術論文	「心の琴線に触れる美しい環境への一考察—オクタヴィア・ヒルとカール協会—」	『比較文化研究』 No.95 日本比較文化学会	オクタヴィア・ヒルの思想と彼女が関わったカール協会についての考察	2011.1
Bb 学術論文	「人々の関係を結びつける失われた鎖—19世紀英国の女性社会改良家の活動を手がかりに—」	『聖学院大学総合研究所紀要』No.49 聖学院大学総合研究所	オクタヴィア・ヒルとエレン・ランヤードの思想及び活動に関する比較考察	2011.1
D 研究 ノート	「理想の風景を歩く—景観の側面からみる英国と日本—」	『聖学院大学総合研究所Newsletter』 Vol.20-2 聖学院大学総合研究所	景観における日英の比較考察	2010.9